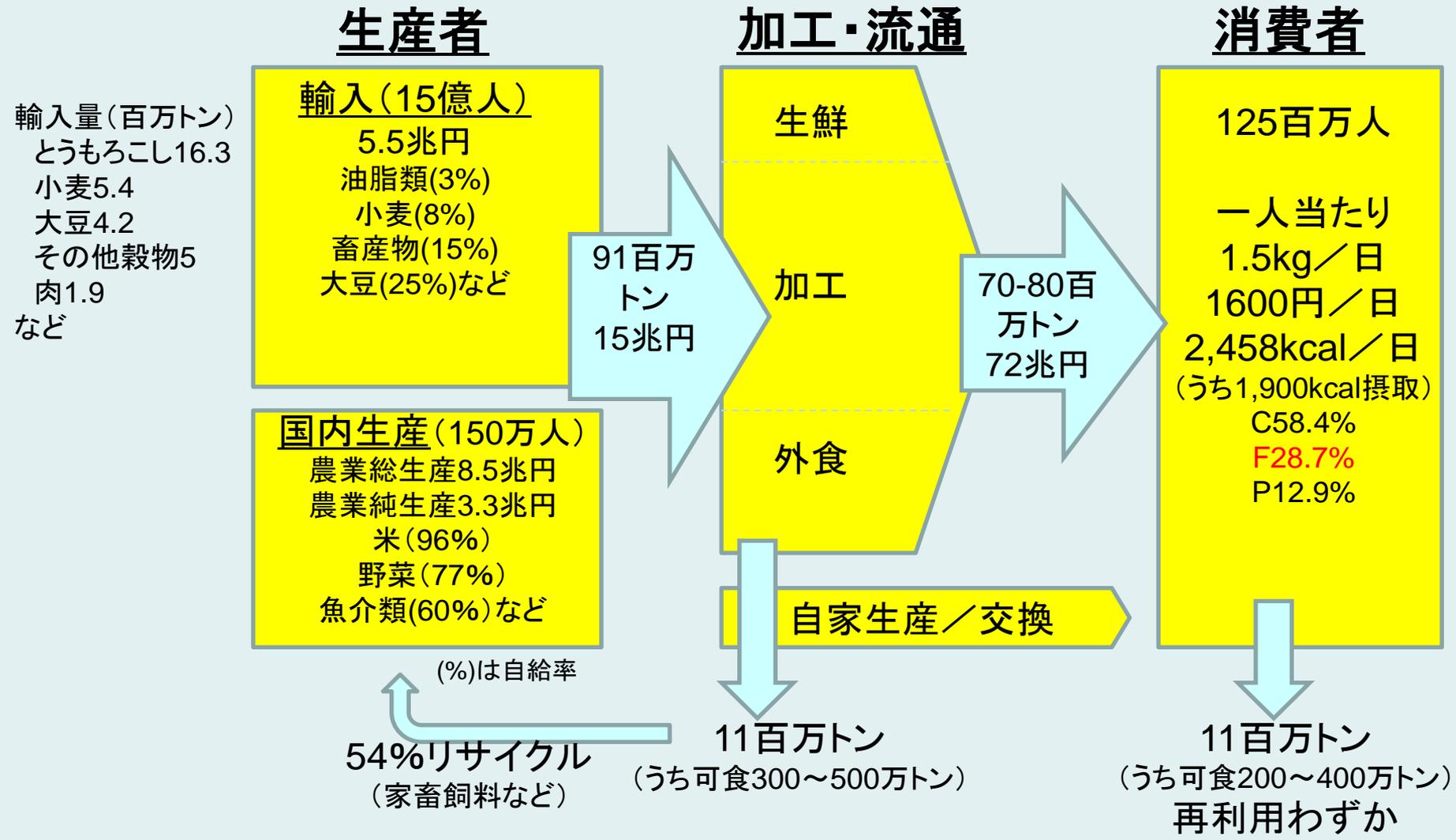


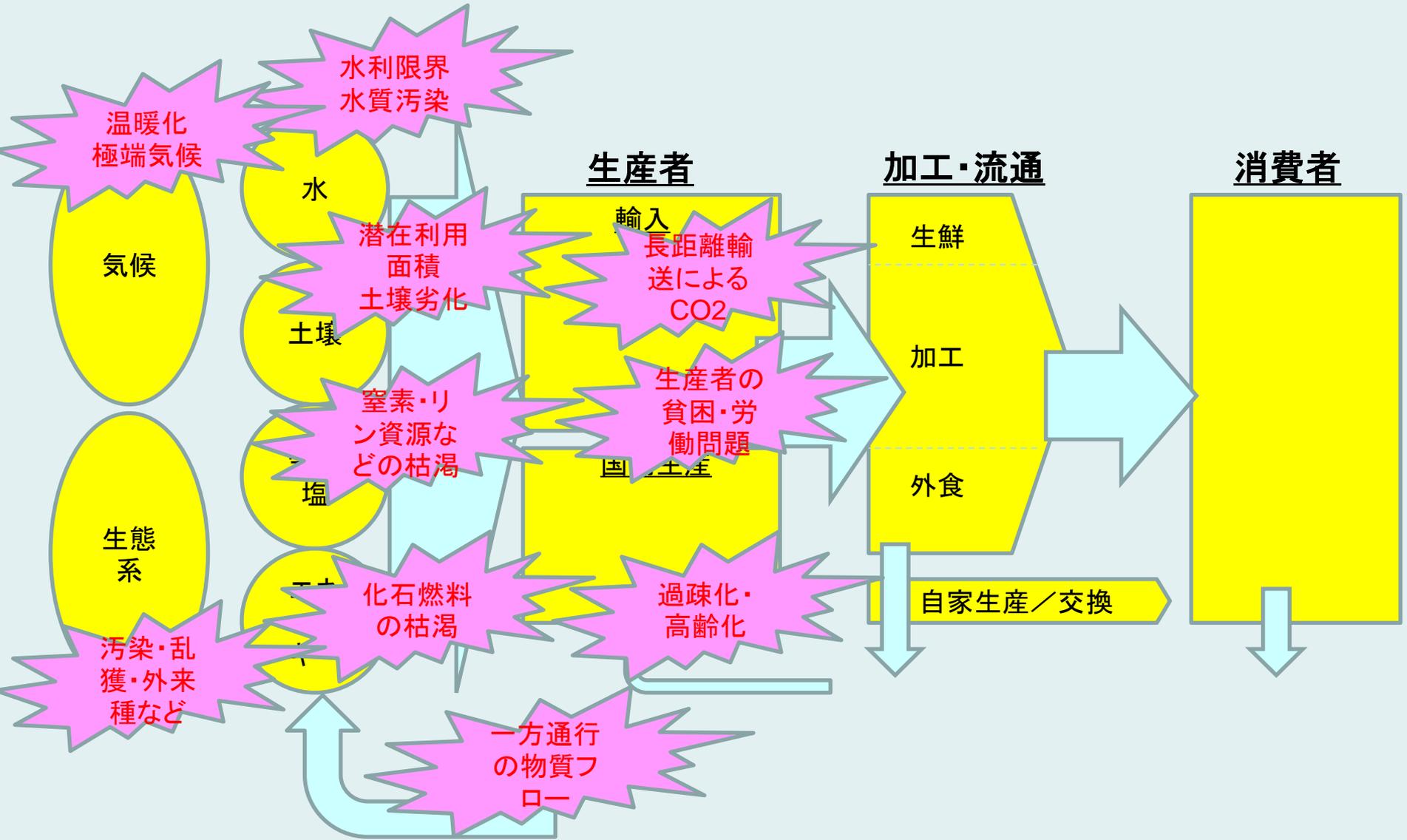
日本の食料システムの現状 と問題提起

2012年2月10日
チェンジ・エージェント
小田 理一郎

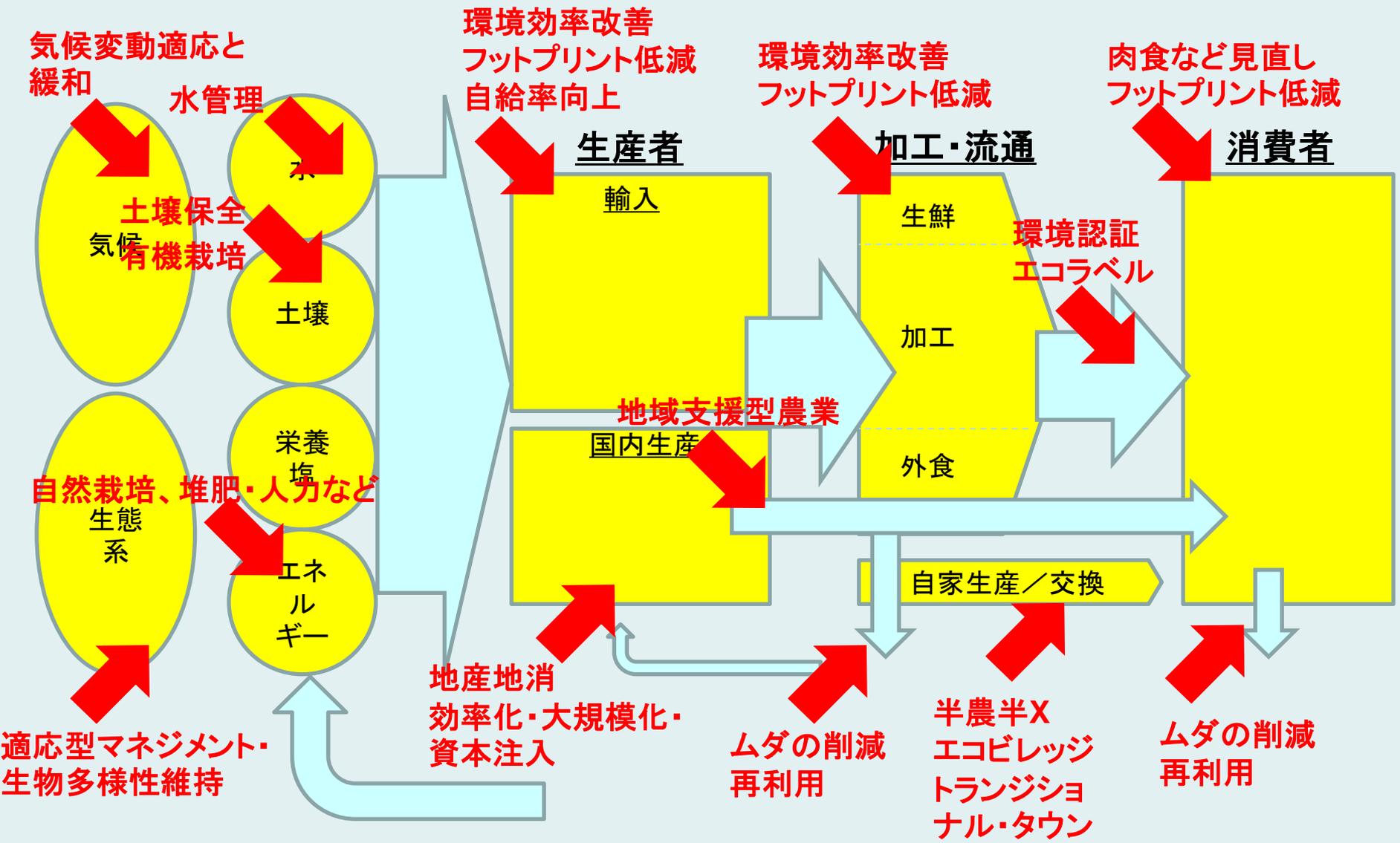
食のサプライチェーン



サプライチェーンの基盤



持続可能性への取り組み



システム規模の普及への障害

- 川上での活動が川下で付加価値として認められない
- 川下からの積み重なる安全／環境の要求が川上の負担となり自由度も少ない
- 価値観・ライフスタイルの根源的な問い直しの成果は一部地域コミュニティにとどまる
=> 都市部生活者・産業界労働者への橋渡しモデル必要
- グローバルな競争下でのディスインセンティブ
- コモンズ(共有財)の管理の整備不足
など

世界の潮流： サプライチェーンをまたがる協働へ

- 例： サステナブル・フード・ラボ
 - 北米・中南米、欧州、アフリカの大陸横断で、**企業、NGO、生産者団体などが協働して、食の本流で持続可能性**を高めるためのコンソーシアム
 - ユニリーバとNGO／大学などによる**持続可能な漁業／農業認証と農家指導**
 - シスコとNGOなどによる**農業開発／気候変動適応**
 - カルフルとNGOで**持続可能な漁業／貧困改善**
 - コストコとNGOによる**生産者の貧困改善**
 - 企業連合と大学による**農業のカーボン・フットプリント低減**など

問題提起

- 不確実性が高まる時代において、
いかに食料生産・供給の基盤・能力を
保持し、向上できるか？
- 個別努力では限界がある状況で、
セクターを超えた協働は
いかなる潜在可能性を有するか？